

令和3年度第1回八戸市総合教育会議

○ 日時 令和3年10月22日(金) 午前9時

○ 場所 是川小学校

次 第

1. 開 会

2. 概要説明

3. 出前授業の視察（講師：是川縄文館学芸員）

○ 6年1組（20人）：社会の授業

○ テーマ 縄文土器からみえる縄文人の暮らし

4. 意見交換

（1）出前授業について

（2）是川縄文館の今後の活用と取組について

5. 閉 会

令和3年度 第1回八戸市総合教育会議出席者名簿

氏 名	職
◎ こばやし まこと 小林 眞	市長
いとう ひろあき 伊藤 博章	教育委員会教育長
やなせ まちお 築瀬 眞知雄	教育委員会委員
あぶらかわ いくこ 油川 育子	教育委員会委員
こせがわ きい 小瀬川 喜井	教育委員会委員
ふくい たけひさ 福井 武久	教育委員会委員

◎議長

是川小学校	職
ささき ひろえ 佐々木 宏恵	校長

事務局	
いしがめ じゅんいち 石亀 純悦	教育委員会 教育部長
なかさと みつたか 中里 充孝	教育委員会 教育部次長兼教育総務課長
おおだて ひでみつ 大館 秀光	教育委員会 教育部次長
みなみだて よしたか 南館 義孝	教育委員会 教育指導課長
くどう あきら 工藤 朗	教育委員会 是川縄文館 館長
まつはし ひろみ 松橋 広美	教育委員会 是川縄文館 副館長
かわむら まさのぶ 河村 雅庸	教育委員会 総合教育センター 所長
ささき ただし 佐々木 眞	まちづくり文化スポーツ部 文化創造推進課長

※他に関係G L等が出席

是川小学校と「縄文」

令和3年10月22日(金)
八戸市総合教育会議
学校概要説明資料
八戸市立是川小学校
校長佐々木宏恵

本校の概要 教育目標等

1 本校の概要

明治9年12月27日創立(145年目)

令和3年度 児童数 147名

学級数 8学級(通常学級6 特別支援学級2)

※令和3年5月1日 現在

2 教育目標 「学ぶことの喜びと確かな力をもつ是川の子」に向けて

学校経営方針

- (1) 公立の義務教育機関として、各法令・青森県教育委員会及び八戸市教育委員会の方針と重点を基盤とし、「子供のいのち最優先」を常に念頭に置いて教育活動にあたる。
- (2) 全ての判断基準を「子供」におき、学習指導要領全面実施を受けて確かな学力の保証に努め、知・徳・体の調和のとれた子どもを育成する。
- (3) 子供の実態を丁寧に見取りながら「もっとよくなりたい」という向上心を大切に育み、子供の背景にある家庭及び地域社会から信頼される学校を目指す。

3 令和3年度学校目標 「仲間を認め、自分の力で頑張る子」

〔重点施策〕

- (1) 主体的で対話的な授業づくりの推進
- (2) キャリア教育と道徳教育を軸とした諸活動の充実
児童会テーマ：「みんなと協力し、元気いっぱい is 川小」
- (3) 心身の健康のために、自ら考え行動する場の設定の工夫

「縄文」との関わり方

- 1 「縄文＝是川の誇り」という意識を子供にもたせる
「世界遺産」＝「世界の宝」
「世界遺産に住んでいる」「大切なものが身近にある」 } 是川への誇り
- 2 教育課程に無理のない範囲で「縄文」と関わる
青森県及び八戸市の事業の活用(専門家による指導や解説)
→学級担任による振り返りで、子供の学びの幅を広げる。

是川小学校と「縄文」の関わり～日常編～

1 「縄文」の響きを日常に

「じょうもんノート」：自主学習ノートの名称

「じょうもんウィーク」：是川中学校のテスト週間に合わせた家庭学習強化週間

「じょうもんコンテスト」：じょうもんウィークに学んだことの力試し
「じょうもんマラソン」「縄文祭り」等地域の行事への参加

2 是川小学校と「縄文」の関わり ～土器や土偶を身近に～

(1) 是川縄文館での土器土偶づくり(総合的な学習の時間)

1年生 縄文イヤリング
2年生 板状土偶
3年生 三叉紋土器
4年生 風張土器
5年生 上里土器
6年生 遮光器土偶頭部
(令和元年度までは合掌土偶)

発達の段階に合わせて
レベルアップ

今年度はオンラインで実施

(2) 是川中学校での「野焼き」体験(6年生)

今年度はオンラインで見学

是川中学校区小・中学校ジョイントスクール事業の一環として実施
中学生とともに、廃材の運搬や作品の設置、火入れ等の体験をする。

是川小学校と「縄文」の関わり～特別編～

1 縄文体感世界遺産講座(R2_6_5実施)

県世界遺産推進室の職員の方による縄文時代についての講義や土器の観察を行い、縄文文化のすばらしさを実感

2 あおもりJOMON GYOMO プロジェクト(R3_6_29実施)

- ・青森県環境生活部生活文化課及び東京芸術大学美術学部教育研究室・工芸家染色研究室による出前事業を実施。
- ・当日は、東京芸術大学の教授とオンラインでつながり、動画投稿サイトも併用しての実習となった。また、その様子を、江東区立第三日暮里小学校もオンラインで見ながら参加した。
- ・子供たちの編んだ漁網をつないで大きな網を作り、来年地引網をする予定。手元には残らないことから、編んだ網はインクで色付けし、布のトートバッグにプリントした。(黒板に掲示)

本日参観いただく授業(是川縄文館出前講座)について

テーマ「縄文土器から見える縄文人の暮らし」

●内容

- ①世界遺産となった是川石器時代遺跡の特徴や価値など、郷土の歴史について知る。
- ②土器を使ったグループ学習を通して、観察・分類といった学習の素地や、コミュニケーション能力を養う。

●1時間目前半(8:35～9:00)

- ・Jamboardを使って、縄文時代についての知識の共有
- ・是川縄文館学芸員からの講義(是川石器時代遺跡や世界遺産について)

●1時間目後半～2時間目前半(9:00～9:20 9:25～9:40)

- ・縄文土器を観察して気付いたことをJamboardにまとめ共有

●2時間目後半(9:40～10:10)

- ・Jamboardにまとめたことを発表し、学芸員からの補足及び解説

是川縄文館出前授業について

1. 概要

是川縄文館開館当初より、学芸員と縄文是川ボランティアが市内小中学校等へ出向き、体験学習や講義を通して遺跡の魅力や縄文時代の人々の暮らし伝える出前授業を実施している。

平成 30 年度より、合掌土偶（いのるん）をテーマに、「つくる」、「さわる」、「きく」、「みる」の各コンテンツを、希望に応じて組み合わせ、学校や縄文館で実施することができる学習プログラムを作成。

また、令和 2 年度からは、是川石器時代遺跡をテーマに、世界に誇れる縄文文化のすばらしさを伝えるとともに、学芸員という職業、考古学という学問を知ってもらう「世界遺産講座」を加え、実施している。

2. 是川小学校での出前授業について

(1) 授業の目標

- ① 世界遺産となった是川石器時代遺跡の特徴や価値など、郷土の歴史について知る。
- ② 土器を使ったグループ学習を通して、観察・分類といった学習の素地や、コミュニケーション能力を養う。

(2) 内容

① 授業の方法

- ・ 4 グループ（各 5 名）に分かれて学習。
- ・ 縄文土器・ワークシート・Chromebook のホワイトボード機能（Jamboard）を活用。

② 授業内容 [1 校時]

（導入）

- ・ グループ毎に Jamboard のフレームを作ってまとめていく。
- ・ 学芸員の講座前に、縄文時代について知っていることを書き出して知識を共有する。

（講座）

- ・ 学芸員から縄文時代・是川石器時代遺跡・世界遺産について説明する。
- ・ 講座を聴き、各自のイメージとの異同を感じる。また、縄文時代の暮らしと文化、世界的な価値、是川石器時代遺跡の特徴について知る。
- ・ 縄文土器の概要について知る。

（観察・意見共有）

- ・ 縄文土器を観察してワークシートに記入する。
- ・ 観察した内容と、縄文時代についてをグループで話し合っ、Jamboard に文字・写真でまとめる。
- ・ 学芸員がグループワークを見回り、項目が少ない場合はヒントを出す。

③ 授業内容 [2 校時]

（観察・意見共有）

- ・ 1 校時の続きと、振り返り。

（発表）

- ・ グループ毎に発表する。

（まとめ）

- ・ 発表から、わかったことを整理する。
- ・ 1 校時はじめの Jamboard と比べ、知識が増えたことを感じてもらう。
- ・ 学芸員から縄文土器や縄文文化について補足説明する。

コンテンツを組み合わせよう！

学芸員・縄文是川ボランティアが、学校などにうかがって出前授業を行うほか、是川縄文館での課外授業も受け付けています。新型コロナウイルス感染症対策のため、実施内容については事前にご相談ください。授業時間などにあわせて、各コンテンツを組み合わせご利用できます。お申し込みは、実施日の2週間前までに是川縄文館へご相談ください。

いのるん縄文学習の組み合わせ例

○出前 45 分コース

いのるん学習
(30 分)



レプリカいのるん
(15 分)

○出前半日コース (3 時間 30 分)

いのるん学習
(15 分)



レプリカいのるん
(15 分)



いのるんづくり
(3 時間)

○課外半日コース (4 時間 00 分)

いのるん見学
(50 分)



レプリカいのるん
(10 分)



いのるんづくり
(3 時間)

このほか、縄文土器作りや勾玉作りなどの各種体験学習も実施できます。詳しくは是川縄文館までお問い合わせください！

八戸圏域広域的体験学習支援事業

はっふる隊

是川縄文館では令和元年度、八戸市内外の 15 校から 689 人の利用者がいました。ぜひ、はっふる隊でも是川縄文館をご利用ください！
くわしくは、八戸市教育委員会 教育指導課まで(☎43-2111 内6115)。

◆観覧料の減免について◆

下記の場合、観覧料が減免されます。

- ・八戸市内の小学校、中学校または特別支援学校が、教育課程に基づく学習のため団体で観覧するとき。
- ・八戸市外の小学校、中学校または特別支援学校の教員が、教育課程に基づく学習のため児童・生徒の引率で観覧するとき。

※事前に観覧料減免申請書のご提出が必要です。
(申請書は是川縄文館で配布しています。)



八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

031-0023 青森県八戸市是川字横山1 ☎0178-38-9511
<https://www.korekawa-jomon.jp>

- 開館時間／午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日／月曜日（第一月曜日、祝日・振替休日の場合は開館）
※12月～3月の冬季期間は第一月曜日が休館になります。
祝日・振替休日の翌日（土・日曜日、祝日の場合は開館）
年末年始
- 観覧料／一般250円(130円) 小・中学生50円(30円)
※()内は20人以上の団体料金
- 駐車場／普通車86台 大型バス6台 障がい者用3台
※縄文学習館は是川石器時代遺跡整備のため休館中です。



小学校・中学校向けパンフレット2021

いのるん縄文学習のすすめ



八戸市埋蔵文化財センター

是川縄文館

いのるんから学ぼう！縄文時代のくらし

いのるん作り

つくる！

国宝 合掌土偶を作って縄文人のものづくりを学び、土偶に込められた縄文人の思いや祈りについて考えます。
なぜ縄文人は手間ひまをかけてまで、美術品のような合掌土偶を作ったのか一緒に考えましょう！

◆所用時間：3時間～

◆対象学年：小学5年生から ※上級者向け

◆費用：300円（一人あたりの材料費）

※・新型コロナウィルス感染症対策のため、事前にご相談ください。

・作品は1ヶ月程度乾燥させて、焼き上げてから引き渡しになります。雨天などで遅れることがあります。

・はっふる隊でご利用いただけます。



いのるん作りのようす

いのるん学習

きく！

合掌土偶が作られた今から約3,600年前の縄文時代のくらしについて、学芸員が授業をします。
教科書に載っていない八戸の縄文人をたくさん知ることができます。縄文時代の素朴な疑問にもできる限りお答えします！

◆所用時間：30分～

◆対象学年：小学5年生から

◆費用：なし

※パワーポイントを使用する場合は、スクリーン・プロジェクターが必要です。



遺跡から出土したいのるん

レプリカいのるん

さわる！

三次元計測と3Dプリンターで触れる合掌土偶を作りました！重さも実物と同じ！

ケース越しでしかみられない国宝の合掌土偶を、手に持っているような角度から観察してみましょう。全身赤いのはなぜか…答えもお楽しみに！

◆所用時間：10分～

◆対象学年：小学1年生から

◆費用：なし



レプリカいのるん

いのるん見学

みる！

国宝 合掌土偶は、是川縄文館で展示中です。
縄文是川ボランティアや学芸員が土偶の特徴や発見場所などの解説を行います。このほか、同じ遺跡からみつかった土器や石器などもたくさん見学できます。

◆所用時間：1時間～

◆対象学年：小学1年生から

◆費用：観覧料

※・観覧料や減免など、詳しくは裏面をご覧ください。

・是川縄文館では見学・体験学習・授業などの組み合わせも可。
こちらもぜひご利用ください。



展示中のいのるん

「世界遺産へGO！是川遺跡から学ぶJOMON」

New!!

みなさんは是川遺跡が世界遺産になるかもしれないことを知っていますか？

是川遺跡をはじめとする「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、令和2年1月に日本の世界遺産への推薦資産となり、最短で令和3年の登録実現がみえてきました。本講座では学芸員が学校などへ直接おうかがいし、是川遺跡を通して、世界に誇れる縄文文化のすばらしさや世界遺産登録へ向けた取り組みを紹介します。

◆所用時間：1時間程度

◆内容：①解説「縄文遺跡群と世界遺産」
②体験学習
「是川遺跡の出土品をさわってみよう」
「縄文をつくってみよう」

◆対象：

学校教育関係（市内小学校（5年生から）、中学校、高等学校、大学、各教育研究会、PTA）

◆費用：なし



縄文時代おわり頃の是川ムラ
作画：安芸早穂子氏



縄文をつくってみよう



是川遺跡の出土品をさわってみよう
※写真はイメージです

是川縄文館でできる体験学習！

是川縄文館では、縄文人の“ものづくり”を体験できるいろいろなメニューを用意しています。くわしく知りたい方は下見ができます。新型コロナウィルス感染症対策と合わせて是川縄文館へご相談ください。

体験内容	所要時間	材料代
火起こし	15分～	無料
土器の文様拓本	1時間～	無料
土製耳飾り作り	1時間～	100円
縄文の布を編む	2時間～	200円
板状土偶作り	1.5時間～	200円
遮光器土偶頭部作り	2時間～	200円
ミニ合掌土偶作り	3時間～	200円
縄文土器作り(500g)	1.5時間～	200円
縄文土器作り(1kg)	2時間～	400円
縄文土器作り(1.5kg)	2.5時間～	600円
滑石の勾玉作り	1時間～	300円
琥珀の勾玉作り	1時間～	1,000円

●縄文土器などの粘土を使った作品は、製作後に野焼きで仕上げるため、体験学習実施日の翌月末以降の引渡しになります。
●体験学習や見学は組み合わせで活用することができます。
・詳しくは是川縄文館（38-9511）までお問合せください。
●冬季（11月～3月）は野焼きができないため、ねんどを使うメニューについてはご相談ください。



縄文土器作り



火起こし



遮光器土偶頭部作り



縄文の布を編む



滑石の勾玉作り

八戸市の文化施策の推進にあたり是川縄文館に期待する役割

1 (仮称) 多文化都市八戸文化芸術推進基本計画案について

(1) 計画策定の趣旨

平成29年6月に「文化芸術基本法」が改正され、地方における文化芸術の推進に関する計画の策定が努力義務として規定されたこと、また、平成27年12月策定の「八戸市文化のまちづくりビジョン」が推進期間を概ね5か年としていたことから、新たに当市の文化芸術施策の推進に関する基本的な計画を策定するものです。

(2) 施策の方向性

【施策1】ふれる・ふかめる ～文化芸術に親しむ～

市民による多彩な文化芸術活動の振興、子ども達が文化芸術に親しむ機会の充実など

【施策2】つくる・いどむ ～新たな創造への取組～

アートプロジェクトの実施やパフォーミングアーツ、クリエイティブビジネスの振興など

【施策3】まじる・まざる ～文化芸術による共生～

障がい者等による文化芸術の鑑賞や参加など社会包摂の取組や国際交流の推進など

【施策4】のこす・いかす ～伝統の継承と活用～

ユネスコ世界遺産の縄文文化の発信、地域に根ざす文化・文化財の保存継承と活用など

【施策5】つなぐ・ささえる ～担う人、支える人の確保・育成～

専門人材の確保・育成、文化ボランティアの活動振興など

【施策6】あつめる・ひろめる ～連携のソフトインフラ～

多様な主体が連携するプラットフォームづくり、県や近隣自治体との連携強化など

2 是川縄文館に期待する役割

令和3年7月27日、国史跡「是川石器時代遺跡」が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとしてユネスコ世界遺産に登録されました。

このことは、当市の長期にわたる「縄文」に特化した丁寧かつ学術的な調査研究の成果が認められたものと認識しています。

文化施策の観点からは、子どもたちや市民への教育普及事業や、市内外、世界へ向けたより一層の情報発信、サポートスタッフへの研修の充実、自主的な活動への支援を通じて、是川遺跡や縄文文化の認知度が向上し、更なる市民の誇りの醸成となることを期待しています。

【期待する主な取組】

- 史跡是川石器時代遺跡整備基本計画の推進（埋蔵文化財調査、遺跡整備活用など）
＜施策4、施策5＞
- 是川縄文館による情報発信とボランティアガイドなどによる来館者の受け入れ態勢の充実＜施策2、施策4、施策5＞
- 小中学生や市民を対象とした縄文の生活体験、縄文の工芸体験・道具づくりを始めとした各種講座や実体験などの教育普及事業の充実＜施策1、施策4＞
- 観光地域づくり法人（（一財）VISITはちのへ）と圏域事業者で取り組む、観光客の来訪・滞在促進を図る誘客プログラム（観光商品）の充実及び情報発信
＜施策2、施策4＞

3 八戸ブックセンターと是川縄文館との関連事業について

八戸ブックセンターは「本のまち八戸」を目指す拠点施設として、民間・公共問わず様々な関係者と連携を図りながら、本にまつわる企画事業を実施しています。

その一つとして、「北海道・北東北の縄文遺跡群」のユネスコ世界遺産登録を記念したギャラリー展「紙から本ができるまで展」を来年3月より開催します。

この企画では、是川縄文館や三菱製紙八戸工場にご協力いただき、関連イベントを実施しながら、縄文土器づくりの教本を実際に出版し、その本ができるまでの過程などをギャラリーで展示します。是川縄文館についてなどを、八戸ブックセンターや「本」からも知っていただけるような企画となっています。